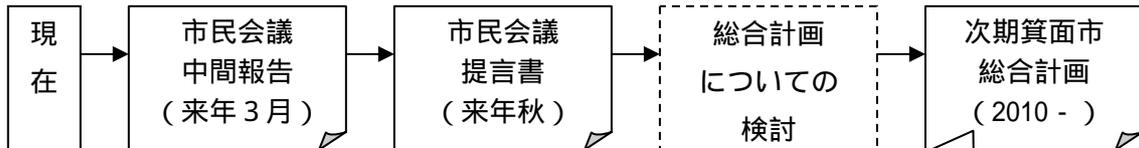


中間報告のイメージについて

1. 次期総合計画はどのような計画になるのか？

- ・ 次期の総合計画が、どのような姿・かたち、構成になるのかについては、まだ、決まっていません。市でも検討が始まったばかりです。
- ・ 全国各地では様々な試みを取り入れた、多様な総合計画が作られています。



- ・ 全国各地では次のような試みが行われています。
 (例) 後で取り組み成果が検証できるようにする
 市民・事業者・行政の協働の指針とする
 内容にメリハリをつける(総花的にしない)
 計画の進ちょく管理をきちんとする

2. 「こんな位置づけ、姿・かたちの総合計画にしようよ」ということも提言します。

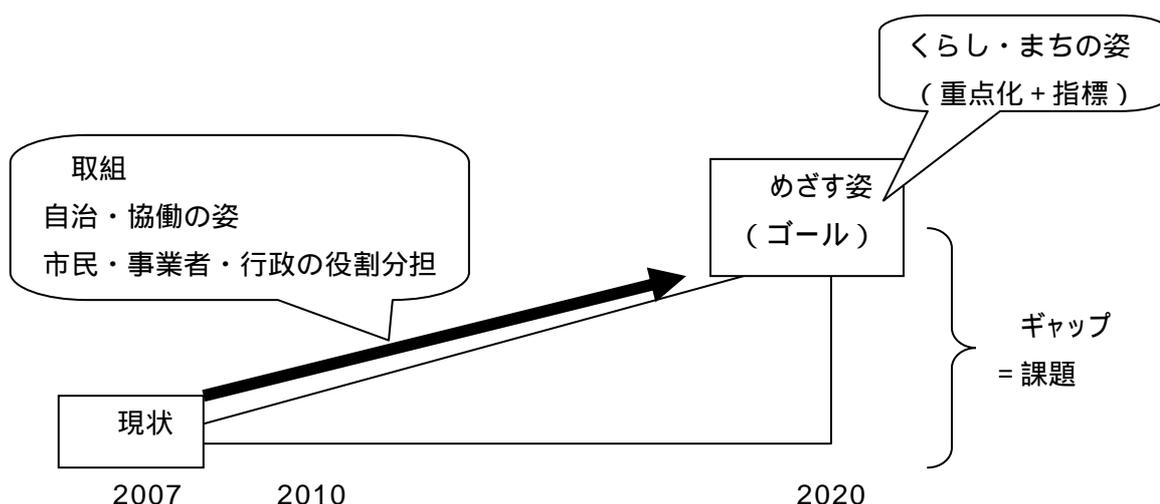
- ・ そこで、「これからの時代認識」と、それを受けた「これからのまちづくりの進め方」、「総合計画の位置づけ・役割」、「総合計画の姿・かたち」などについて、市民会議から提案していきたいと思います。
- ・ そのたたき台については、「市民主体のまちづくり」部会と「箕面市の経営改革 - ビジョンと戦略」部会が連携して作成していきたいと考えています。

～「市民主体のまちづくり」部会と「箕面市の経営改革 - ビジョンと戦略」部会が連携して検討していくこと(予定)～

- 箕面市を取り巻くこれからの10年の認識
- 現状の問題意識
- これからのまちづくりの進め方
- これからの総合計画の位置づけ・役割

3. 「提言書」の構成要素のイメージ

- ・ 検討の基本的な流れとしては、分科会ごとに、「現状の問題点」と「めざす姿（ゴール）」から、その差（ギャップ）を明確にし、それを解消していくための「取組」を考えていきます。



- ・ 現段階では、最終の提言書では、以下のような事柄を構成要素としていくことを検討しています。
- ・ 各分科会では、主にロ) 八) について検討していただくこととなります。
- ・ イ) 二) については、前ページで説明したとおり、「市民主体のまちづくり」部会と「箕面市の経営改革 - ビジョンと戦略」部会が連携してたたき台を作成していきます。

[提言書の構成要素 (例)]

イ) まちづくりの考え方、総合計画の位置づけ・役割

そもそもまちづくりや総合計画は、今後こうあるべきだという考え方

ロ) 実現を目指すくらし・まちの姿 (どんなまちにしたいかというゴール)

特に重要な事柄を明らかにする (重点の置きかた)

達成したい水準を定量的に示す (数値的な指標、目標値)

ハ) ゴール達成への道筋

取り組むべき課題 (現状と目指す姿との間のギャップ)

行政の役割・活動だけでなく、市民、事業者、市民活動の役割にもふれる

二) 進捗管理の仕組み

いつ誰が何によってどのような評価を行い、評価結果をどう活かすのかを示す

4. 中間報告会に向けて

- ・ 来年3月の中間報告会に向けては、分科会それぞれの視点から、「現状の問題点」や「めざす姿」、「課題」、「必要な取り組み」について検討していただきたいと思います。
- ・ 中間報告会では、これまでの「活動経過」について報告していただく予定です。

(中間報告会での発表内容のイメージ)

- ・ どういう問題意識をもって分科会活動をイメージしたか
- ・ どのように取り組んできたか(活動の経過概要)
- ・ 現時点でのまとめ(課題、方向性、取組アイデア)
- ・ 今後の活動予定

- ・ 1月の全体会議では、上記の流れに沿って各分科会から報告をしていただく予定です。

箕面市全体での「将来都市像」や「キャッチフレーズ」については、各分科会での検討成果から紡ぎだしていければと考えています。したがって、中間報告前までに無理をしてつくることは考えていません。1月の全体会議での各分科会からの報告状況をみて考えていく予定です。

また、中間報告の段階では、分科会間で多少の矛盾があってもよいと考えています。むしろ、矛盾を示し、さらに市民の意見を聞いていければよいと思います。

